

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：30120

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：18K17615

研究課題名（和文）軽度認知症高齢者に対する有償ボランティア活動の効果

研究課題名（英文）Effect of Paid Volunteer Activities for the Elderly with Mild Dementia

研究代表者

藤谷 未来 (fujiya, miku)

日本赤十字北海道看護大学・看護学部・講師

研究者番号：90779638

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の研究デザインは無作為化比較試験であり、介護予防事業の参加者、ボランティアスタッフ、有償ボランティアスタッフとして参加した軽度認知症高齢者各5名程度を対象とした。謝礼を渡す群を介入群とし、ボランティア（対照群A）と参加者（対照群B）は無作為に割り付け、主要評価項目に改訂長谷川式簡易スケールを用いた。研究者所属の倫理審査を受け、承認を得たが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、介護予防事業等の高齢者の集会を開催できていない市町村が多く、協力を得ることが出来ず実施には至らなかった。研究方法等を改め、今後調整していく。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究のフィールドとなる市町村の介護予防事業等が、新型コロナウイルスの影響で開催されなかったことから、本研究の実施も困難であり、研究としての成果は得られなかった。よって、学術的意義や社会的意義を見出すこともできていない。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify whether obtaining financial benefits in social activities would prevent cognitive decline. The study design was a randomized controlled trial, and targeted about 5 elderly people with mild dementia who participated as participants in the preventive care project, volunteer staff, and paid volunteer staff. The intervention group was defined as a group that received a reward, and volunteers (control group A) and participants (control group B) were randomly assigned, and the revised simplified Hasegawa scale was used as the primary endpoint. Although the researcher's affiliation underwent an ethics review and received approval, due to the spread of the new coronavirus infection, there are many municipalities that have not been able to hold meetings for the elderly such as preventive care projects, etc., and it was not possible to obtain cooperation. We will revise our research methods and make adjustments in the future.

研究分野：老年看護学

キーワード：高齢者 認知症 ボランティア

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

平成 27 年度の介護保険法改正により、介護保険サービスの一部が地域支援事業に移行したし、介護保険サービスの一端をボランティアが担うことが謳われ、ボランティアの量と質の向上が求められている。責任のある質の高いサービスを無償のボランティア活動によって補充しようというのは、ボランティアにとって負担が大きいものであり、サービスを受け取る側にとっても心苦しいものがある。

利益を追求するのではなく、活動実費や交通費、薄謝等を受け取る「有償ボランティア」という活動がある。責任あるサービスを提供する・受け取るためにも、研究者は、有償である意味が十分にあると考えている。しかし、金銭や利益が発生することはボランティアの概念にないという意見もあり、有償ボランティアという言葉や考え方に否定的な意見もみられる。国内外において、有償ボランティアの意義・成果についての研究は少なく、有償ボランティアという金銭的利益が発生する社会活動に意義を見いだせたらという着想に至った。

また、認知症高齢者は、社会的役割を喪失しやすい高齢期というライフステージに加え、認知症を患うことで社会生活が困難になる人もいる。そこで本研究では、認知症高齢者が社会的活動を経て金銭的利益を得ることで、社会的役割を持ち自尊心を保つことが認知症予防につながるのではと考えた。

国内外において、看護の視点で行われた有償ボランティアの研究は少ない。医中誌 Web で「有償ボランティア」をキーワードにし、原著論文を検索したところ 7 件該当した(2017.10.10 時点)。有償ボランティアを研究対象にしたものは見当たらず、看護の視点で有償ボランティアについて行われている研究は国内では本研究が初めてであると考えられる。

2. 研究の目的

本研究では軽度認知障害(MCI)を有する高齢者、または軽度認知症高齢者が社会活動において金銭的報酬を得ることで認知機能の低下を防ぐことができるか否かを明らかにすることを目的とし、有償ボランティアの意義を見出すと共に、認知症初期支援の基礎資料となることを目指した。

3. 研究の方法

(1) 研究デザイン

無作為化比較試験(臨床介入研究)

(2) 対象者

本研究の対象者は、A 県内の 12 町村の介護予防事業の参加者、ボランティアスタッフ、有償ボランティアスタッフとして参加した軽度認知症高齢者各 5 名程度とする。

(3) 用語の定義

本研究中の用語は以下の通りに定義する。

- 1) 軽度認知症高齢者：厚生労働省が監修する「認知症高齢者の日常生活自立度」において、
a または b と保健師が判断した 65 歳以上の男女。認知症の診断の有無は問わない。
：何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している状態で基本的には在宅で自立した生活が可能レベル
a: 日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭外で多少見られても、誰かが注意していれば自立できる状態
b: 日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭内で見られるようになるが、誰かが注意していれば自立できる状態

2) 有償ボランティア：交通費や活動実費以外の謝礼を得て行うボランティア活動。なお、本研究では、1 日 500 円を謝礼とする。

3) ボランティア：交通費・活動実費以外の金銭が発生しない、自発的な意志に基づく他人や社会に貢献する行為。

(4) 実施場所

A 県内 12 町村の介護予防事業実施会場

(5) 実施期間

倫理委員会承認後～令和 5 年 3 月 31 日。

(6) プロトコール

介入前にカルテより基本調査（疾患名、既往歴、性別、年齢、日常生活自立度、要介護度、基本チェックリスト、改訂 長谷川式簡易知能評価スケール、家族構成、使用薬剤、家族から日常生活の様子を聞き取り）を実施し、対象者 5 名を選択。対象者と家族に研究の概要を書面と口頭で説明、協力依頼をする。同意が得られた場合、同意書に署名をいただく。

同意が得られた対象者に対して謝礼として 1 日 500 円を手渡す（介入群）。ボランティア（対照群 A）と参加者（対照群 B）は無作為に割り付ける。介入群には有償ボランティアとして介護予防事業のスタッフとしてできる限りの軽作業（受付や椅子の設置、物品の配付など）を行ってもらう。対照群 A には同様にボランティアとして介護予防事業のスタッフとしての軽作業を行ってもらう。謝礼は渡さない。対照群 B の対象は介護予防事業の参加者として参加してもらう。

(7) 評価項目

- 1) 主要評価項目：改訂 長谷川式簡易知能評価スケール
- 2) 副次的評価項目：日常生活自立度、基本チェックリスト

(8) データ収集方法

主要評価項目は研究者がデータ収集を行い、副次的評価項目とその他の基本調査項目は保健師に依頼した後、データ収集を行う。

4. 研究成果

研究者所属の倫理審査を受け、承認を得て、市町村への説明を行い、調整を行ったが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、介護予防事業等の高齢者の集会が開催できない市町村が多く、協力を得ることが出来ず実施には至らなかった。今後は、再度研究方法等を見直し、調整を図り研究を推進していく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------